

禁断の実についての宗教的考察

小 田 丙 午 郎*

Religious Historical Point of View concerning the Forbidden Fruit

HEIGORO ODA

(1978年9月30日受理)

は じ め に

主なる神はその人に命じて言われた。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。創世記2.16—17

創世記はユダヤ教徒の正典¹⁾ (Canon) であるいわゆる旧約聖書の開巻を占めているだけでなくキリスト教徒のそれでもある旧新両約聖書の序曲ともなっている。上掲はこの創世記に収められた物語、いな神話である。神話にはそれぞれの由来があり、類型がありそして歴史において祭儀として、芸術として詩歌としてまた哲学として潜在し存続して来た。上の神話もまた旧約と新約の両時代を通し、殊にキリスト教の原罪 (original sin, Erbsünde) と救済 (Salvation, Erlösung) の教義が形成される出発点となりカトリック教会やプロテスタント教会において多岐にわたる論義が交わされて今日に至っていることは教会史また教義史が実証しているところである。筆者が本論文において意図するのは上の神話の性格を究明することではなく、多岐にわたる教義論争の問題点を点出しこれを批判するのではなく、この記事の導入されたイスラエルの時代背景を探り、この記事が象徴する記者の真意に触れることにある。

創世記について

禁断の実について触れる前に、これを収蔵する創世記について梗概を述べなければならぬ。創世記はヘブライ語原典は בְּרֵאשִׁית (始原)、七十人訳 (LXX) は *Γενεσις* (創造)。日本語訳の創世記は七十人訳によったものである。これは出エジプト記・レビ記・民数記・申命記と合わせヘブライ語では、 חֻמְשֵׁי תּוֹרָה ギリシャ語では²⁾ Pentateuchos, 前者は律法と訳され後者は五書と訳されている。すでに述べたように旧約聖書はユダヤ教の正経である。

そしてこの正典の根幹をなすものは律法、具体的には上に示した五書である。一方創世記を除く他の四書において重大な役割をなす人物がモーセ (Moses) であるところから、律法はモーセの五書と呼ばれ、これらの著者がモーセその人と信じられた時代があった。律法の編者がモーセでないことは後に説明されるように学者間の定説となっている。にもかかわらず、ドイツでは Luther, Martin (1483—1546) 以来モーセの五書がそう命名された精神に因んでか、モーセの³⁾ 第一の書、第二の書などの書名を付している。ヨーロッパ

* 史学研究室

パヤアメリカは別として日本において五書がイスラエルの民族の発展過程を体系づけていると見た人として内村鑑三をあげることができる。

⁴⁾五書は宇宙萬物が創造られてより撰民が国民として存在するまでの歴史である。即ち其第一期が出生并に生長であって之を記せる部分が創世記である。其第二期は聖別期であって之を記せるのが出埃及記である。其第三期が規則制定期であって、その記事が利未記である。その第四期が砂漠漂流期であって、その記事は民数紀略である。その第五期が建設期であって、これを記述するのが申命記である。イスラエル民族の発展の順序がこの五書において著しく顕われている。

内村鑑三は五書の相互関連をよく把握しこれに付加すべきことがない。だが五書は編書であって著書ではない。これは五書全部について言えるように創世記においてもまたそうである。

創世記を読む時、これには同一記事が重複し内容も相違している。他方この書が救済史である関係から神名が頻々とあらわれて来る。そしてその神名はヘブライ原典によれば一つだけではない。אֱלֹהִים また אֱלֹהִים など。これらの神名の相違に伴ない Context の文体と神観にそれぞれの差異があらわれていることを明らかにしたのは18世紀の⁵⁾ Astruc, Jean (1684—1766)であった。彼は創世記が一人の著者の手になるものでなく二人の主要な記者とさらに別の記者の記事が綜合されたものとしその資料を記者の用いた神名により Jahwist 資料 Elohist 資料と名付けそれぞれ J と E との略号を定めた。彼の学説は祖国フランスでは支持を得なかったがドイツにおいて継承され、五書資料説として学界に公認されるようになった。なお五書の資料は以上の J と E の外に⁶⁾ D と P との資料が発見された。序に D とは Deuteronomist (申命記記者) P とは (Priestly Code 祭司法典) の頭文字である。創世記はアストルックに指摘された J と E との資料の外に P 資料が含まれていることは今日では論義の余地がない。紙数に制限される事情から本文はこれらの四つの資料について詳記することができない。他方本文のテーマの禁断の果の記事が J 資料から来ており、かつ創世記の編者が全体的に J 資料に優先させて点をかえりみて、ここでは J 記者と E 記者の紹介にとどめ他はそれらの成立年代を別注に譲ることとする。

イスラエルの文学的著作活動が始ったのはイスラエル国家の成立、さらに進んでその全盛時代すなわち⁷⁾ David (B.C1002—962) と Solomon (B.C962—922) の両王朝時代であり、口碑や伝説が文書化され王家の保存記録が整理されまた神殿の祭儀関係文書も蒐集された。Jahwist 記者とはこのようなイスラエル統一王国時代の文筆活動をした B・C 8 世紀の記録予言者たちの先駆者である。J 記者が記すところはユダ王国に重点がおかれている。これに対し⁸⁾ Elohist 記者の関心が向けられるのは北方イスラエルである。人も知るようにイスラエル統一王国は 922 年以後、北方イスラエルと南方ユダと政治的理由や経済的利害とりわけ宗教的対立のゆえんに永久に分離するようになった。二つの王国は名こそ異なれ、いずれも真のヘブル民族と信じていた。従って E 記者はイスラエルの歴史のうちにしてそれを通してのエローヒムの救いを強調し、ダビデ王朝を正統とする南方ユダの立場を批判した宗教的指導者たちであった。自由に対し統制が叫ばれ、分裂から統一の方向への動きがイスラエル民族の間にあらわれ J 記者と E 記者の立場が止揚されて行った。こうして 9 世紀の J 資料と 8 世紀の E 資料とが綜合の上編集されたのは 721 年以降、バビロン捕囚の 586 年以前の間と推定される。こうした J と E との綜合の過程が五書の各書の成立において起こり最後に JEDP の四つの資料の編纂の仕上げを見たのは 397 年の Ezra の第二回のエルサレム訪問の頃であった。思うに 586 年のバビロンによるエルサレ

ムの捕囚はイスラエルのエジプトのパロの下の奴隷生活に比せられたであろう。かれらは国土を失い地中海周辺に diaspora として散在する宗教的共同社会となった。かれらが選民として民族的結束を固くするためには神名や教義や祭儀に関する小異を捨て大同につき差異の中に類似を見出さねばならなかった。モーセの五書の成立には以上のようなユダヤ民族の存亡の危機が反映されている。B.C 722年にイスラエルはアッシリヤに滅された。イスラエルの滅びはその十二部族の多くの滅亡でもあった。そしてイスラエルは異民族と混血し歴史から永久に姿を消した。いわゆるユダヤ民族と呼ばれるものは南方ユダの子孫であり英語の Jew が Judah に語源を有することは一般の常識となっている。

JとEとDとPとの総合には南方ユダと北方イスラエルとの統一が意図されていたことは上において説明した。だが北方イスラエルが滅亡してからはその資料の総合と取捨の指導権がユダに移り、ユダのイスラエルに対する優越性がここにあらわれて来たことは容易に察せられるところである。これもすでに触れたこと、旧約聖書の神の名は一つではない。しかしイスラエル民族の宗教族長の信仰、部族の信仰そして民族の信仰へと発展するにつれ、神観の内実を伴ない遂に יהוה に統一されるようになった経過が五書の中にかがわれる。

神名の変遷の過程の詳細はわたくしたちには解らない。族長 (Patriarch) 時代の神は何と呼ばれたか。十二部族 (tribe) の神は同一の名称であったか。いずれにせよ神名は多数から少数に、少数から双数すなわち Jahw と Elohim に縮限されたのではなかったろうか。そしてこれには南方ユダと北方イスラエルの対立する¹⁰⁾政治的勢力が影響したことが考慮されなければならないだろう。他面 Jahw と Elohim との間に二者の択一、言いかえれば Jahw と Baalとの対決が¹¹⁾エリヤ (Elijah) によってなされたような事態が起こった形跡はない。たしかに五書を読めばヤハウエとエローヒムの神名が個別的に用いられている個所がある。だがそれに併行し二つが同格として用いられているところも少なくない。英語 God Jehovah やドイツ語の Gott der Herr に相当するのを原典に照応すれば יהוה יהוה となっている。わたくしたちはここにもイスラエル宗教が一神教 (monotheism) に到達するまで一つの段階をかいまみることができるのではなかろうか。

ではヤハウエとエローヒムの同時存在はそのままの形で継続したであろうか。そうとは思われぬ。モーセがエジプトにある同胞をパロの被圧から救出する使命を神に託された時、神の自己宣言とされているのは次の通りである。 יהוה יהוה יהוה これを英語は I am that I am. と訳しドイツ語は Ich bin der ich bin としている。日本語訳聖書も「わたしは有って有る者」と上に準じた訳出をしている。因に上記は出エジプト記 (Exodos) の3.14からの引用。これに続き神の自己宣言が続けられ、それを結ぶのは下記の章である。

יהוה יהוה 英訳聖書とドイツ訳聖書と日本記の訳文を併せ英訳と独訳とあげれば This is my name for ever. Das ist mein Name in Ewigkeit. これは永遠に私の名である。ヘブライ語は右から左に読む。またこれには子音 (Consonant) だけで母音 (Vowel) が無い。יהוה יהוה Jahw の正確な読み方は知られないと言う。前文に掲げた¹²⁾「エーイエ・アシェル・エーイエ」は語呂においてヤハウエに類似した語義において一神教の神観に應わしい点から時の経つに従って、神の属性が神の名とされたのではなかろうか。そのことのゆえにも Jahwist 記者は Elohimist 記者に優先する地位を五書の編者から与えられたであろう。前文によって五書の文書の構成を略述しそれに関連し、なかに含まれる創世記の J記者の立場を地位づけて来た。

創世記は原典において50章に区分されている。その詳細な内容の綱目は補注の¹³⁾注解書にゆずり、筆者は本文に必要となされる範囲での素描にとどめておく。これは神（エローヒム）による天地の創造。¹⁵⁾ アダムとエヴァの人祖の出現。人祖の墮落。人類の地上分布。アブラハムの選別。十二部族への分割。さらに別言することが許されるなら、神による自然史と人類史と選民史とに要約することはできないであろうか。歴史には周辺と核心とある。創世記の核心は何か、それは選民イスラエルの起源であろう。J記者の本名は全く不明である。新約聖書の中の¹⁴⁾ヘブル人への手紙の発信者が謎のままに包まれているのと、これは正に対比的である。日本においても旧約聖書の一般解説もJとEについては必ず触れ、その類似と相違を説明している。このゆえわたくしたちはこの文においてはただ一つを取上げることにする。それは両記者の立つ執筆環境について。J記者の関心事は南方ユダ、これに反しE記者のそれは北方イスラエルに関することは前に記した。ユダヤの歴史はオリент（Orient）に特異の地位を占めている。この国はオリентでは文字通り弾丸黒子の地であった。古代オリントの大国エジプト・アツシリヤ・バビロン・ペルシャはイスラエルを圧迫し征服し捕囚し占領しながら遂に歴史の舞台から姿を消し、国土は例外なく異民族の活躍の場と化した。これとは全くあべこべなのはイスラエル。1948年に建国を見たイスラエル共和国の人民ユダヤ人の先祖が前587年以年¹⁶⁾ diasporaとして世界の各国に寄寓したユダヤ人であることは先に述べた。ではイスラエルの選民史としての創世記はこの民族の起源をどのように記しているか。古代社会においては部族（Iribe）の名はその代表者である族長や首長の個人名を付せられた。ユダもその例である。そしてその次第が記されているのは創世記49章である。ここは創世記の結尾。臨終の族長ヤコブ（Jacob）が長子ルベン（Reuben）を始めとする十二人の子らへの祝福が予言されている。ルベンに始まる祝福の予言は末子ヨセフ（Joseph）に終わり、それぞれ詩形をなし2節から27節に及び28節に至り、すべてこれらはイスラエルの十二の部族であると付記されている。12部族への祝福を逐一掲げることも紙面に制限されている。12部族のうち祝福の行数が多く当てられているのはユダである。

ユダよ、兄弟たちはあなたをほめる。

あなたの手は敵のくびを押え、
父の子らはあなたの前に身をかがめるであろう。

ユダはししの子。

わが子よ、あなたは獲物をもって上って来る。
彼は雄じしのようにうずくまり、雌じしのように身を伏せる。
だれがこれを起すことができよう。

つえはユダを離れず、
立法者のつえはその足の間を離れることなく、
シロの来る時までには及ぶであろう。

もろもろの民は彼に従う。

彼はそのろばの子をおとうの木につなぎ、その雌ろばの子を長きおとうの木につなぐ。

彼はその衣服をおとう酒で洗い、
その着物をおとうの汁で洗うであろう。
その目はおとう酒によって赤く。
その歯は乳によって白い。

訳文が原意と相去るのは日本文だけではない。上に因み一つを指摘しておく。ユダよ、兄弟たちはあなたをほめる。これに照合される原文は下のようである。

יְיָ אֱלֹהֵינוּ יְיָ אֱלֹהֵינוּ יְיָ אֱלֹהֵינוּ

原文において韻律をなしている微妙な語感英語またドイツ語に表出されないところにヘブライ文学の独自のものがある。

一方上掲はユダの祝福の予言である。日本語の¹⁷⁾予言は字のように未来の出来事を事前に告知するかのように受け取られる。これはイスラエルの予言者の半面であっても全面ではない。なるほど予言者には神のさばきやすいを事前に予告したものもある。がその半面イスラエルの歴史の事後の現実には過去の神話や物語の形式で予言されている場合もある。

ユダへの祝福の予言もこれである。創世記を繙くに当たり、わたくしたちがおのおの章や節にわたり構成資料の類別と吟味とを行なわなければならない。ユダへの祝福の予言がJ資料に基いていることは同書の注解者たちに異論を呈せられないところである。では族長ユダの口に託された予言に呼応するイスラエルの歴史の時代はいつであったろうか。JとEの両記者の活躍した世紀はこれまでに略記して来た。ユダの族が十二部族を統一したのはダビデ王朝の時であった。ダビデはユダ族の出身。ダビデの出現するまでは、ユダ族はイスラエルの歴史の舞台上に登場しなかった。彼はベニヤミン族出身者、イスラエル王国の祖代の王サウルのペリシテ人征服が未遂のままに終わった後を受けイスラエルの外敵モアブアンモン、(Moab ammoni) を討代し最後には宿敵ペリシテ人 (Philistia) を降服させた。こうしてダビデはイスラエルを外部の侵入から守り十二部族を統一しその政治的功績と軍事的手腕に加え多聞的な人間性と父祖の信仰への忠実のゆえに当代はもちろん¹⁸⁾後世までその余徳を称えられた。これに付記すればダビデは言うまでもなくイスラエル王国の顛末を記すのはサムエル¹⁹⁾書(上下二巻)である。これにはダビデ王家への神の永遠の祝福が予言者ナタンを通して与えられている。

あなたが日が満ちて、先祖たちと共に眠る時わたしはあなたの身から出る子を、あなたのあとに立てて、その王国を堅くするであろう。彼はわたしの名のために家を建て、わたしは長くその国の位を堅くするであろう。ダムエル記下6. 12-13

こうしたダビデ王家への祝福の約束を創世記のJ記者の筆とされる「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう」の節と照合させる時歴史上の実在人物ダビデが物語上の主人公アブラハムに神からの祝福において互に呼応し合っている読後感をいだかされる。

疑もなくダビデは神から祝福された。彼は、だが、神からの栄光には浴さなかった。神からの栄光は彼からの祝福と同一ではない。彼は忠実な臣下ウリヤの妻バテシバと²⁰⁾姦淫を行なった。それに関連した事後の彼の措置には何人からも寛容を得られぬものがない。これと符帳を合わせたような記事がユダの父祖について載せられている。ダビデの息子の²¹⁾嫁タマルと交わした不潔な振舞は一時のたわむれとは言いながら嫁に彼の胤を宿らせる結果となった。国王ダビデと族長ユダとはこのように救済路線においてその償いがたい罪過において神からの祝福にあずかっている。

五書はイスラエルの選民の救済史である。イスラエルはその歴史の中にまたそれを通してその選民意識には高低の波のうねりを繰返している。かれらは現在から過去へ溯源し、これと表裏して過去から現在へと航行して来た。かくかれらが過去と現在との絶えざる対話することにより、かれらは古代世界における最初の歴史哲学を持つ民となった。他面

かれらはオリエントの諸国の興亡の跡を顧み、自国の世界史に占める地位をすることができた。人がかれらの自己認識の告白として引用するのは五書の結論とも言われる申命記の二六章の五節から十節までである。今はその一部を紹介することで満足しなければならない。

わたしの先祖はさすらいの一アラムびとでありましたが、わずかの人を連れてエジプトへ下って行って、その所に寄留し、ついにそこで大きく、強い人数の多い国民になりました。

以上はイスラエルの選民意識の波の高まりである。

イスラエルは重ねて、過去と現在とを対話させた。それと表裏してかれは神とその民としての対話を繰返した。これによりかれらの歴史哲学は²²⁾救済史となった。またこれによりかれらの選民意識の高まりは自己抑制の低さをもたらした。かれらの民族生活の究極の規範である²³⁾モーセの十戒は神の自己宣言に始っている。

わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地奴隷の家から導き出した者である。出エジプト記20.2

これに絡み原文の中の神の名をあげれば、יהוה יהוה 前者は英語の Jehovah に当たり旧い日本の文語訳はこれを用い、現行訳は上の主であり後者はあなたの神の訳語。世にいう頭が上らないとはイスラエルの神に対する歴史的回顧の場合であった。

この章を終える前に、わたくしたちはJ記者について一つを付記しておかなければならない。思うにJ記者はダビデ王朝の隆盛期に文筆家として活動しながらも、王朝との接触は殆ど持たなかったであろう。彼は文字通り宮廷顧問に等しい役割をした²⁴⁾予言者ナタンとは反対の環境に住んでいた。彼はダビデ王朝の繁栄を如実に目撃する半面これに秘室の腐敗を端的に看取した。彼はナタンがダビデの背信行為を面前で断罪したのに反し、過去の史実を提示することによってこの王朝に警告を与えたのではなかったろうか。

彼は口伝や文書を手懸りに現在から過去に溯反しさらに過去から現在に航行してユダの歴史の流れに神への背叛を看取した。そして後はヨハネの黙手録の記者のように²⁵⁾ πόθεν πεπτωκας と自問したであろう。彼が自問を繰返して示された結論は人類の起源にあった。人類の始源にまた人間の自由それ自体のうちにこの墮罪が胚胎していたとは彼の独自の史観でありまた神学であった。

禁断の実

再び上掲の所題とテキストに。上が神話であり、それがオリエントの諸国のそれに影響されており、そしてこれとかれとの比較を丹念に研究したのが Hooke, S.H. であり、吉田泰訳として「オリエント神話と聖書」と言う書題で出版されている。この書が原名の Middle Eastern Mythology, (1963) に示されるように、メソポタミヤ・エジプト・ウガリット・ヒツタイトの神話を紹介しそれらの相互関連を研究している点において注目値する業績であろう。本書はそれにもかかわらず、いな、その研究領域の関係の性質から、禁断の実の解釈には墨絵の筆致のごとく極めてあっさりとして触れているにすぎない。

筆者は同上の書に教えられながら禁断の実の脚光を先ず旧約聖書に求めて行きたい。エデンの園に因み生命の木と善と悪とを知るがあげられている。原始時代においては木の実が主食であり、野菜は地が呪われてから生じるに至ったと信じられていた。事は創世記の記事から明らかである。

この一事だけを示しこの記事の寓意を探ることとする。一体この木の働きである善と悪

を知るとは何を意味しているであろうか。上の語について Driver S.R は次のように説明をしている。

注 The knowledge of good and evil-implying the power to distinguish them, and estimating each at its proper worth,-is a capacity not possessed by little children (Dt.1.39), but gradually acquired by them (Is. VII 15.16), and accordingly deficient in second childhood (2S. XIV 17'); it is specially necessary for a judge (1ing 1119), and is possessed in a pre-eminent degree by divine beings (ch. iii5.22) and angels (2S. XIV17)

Driver の解説は大まかに3つに大別される。第一、一般人としての常識。第二、司直の士として術知。第三超人性。彼は旧約聖書は言うに及ばず注解書の多くを涉獵した碩学。彼の要約には反論する余地がない。とりわけ第三は後に改めて取上げたい。ここで私見を述べれば、善と悪とは倫理的な概念ではなく、むしろ吉凶や禍福や利得や損失を指すのではなからうか。

イスラエル宗教の特質として強調されなければならないものは²⁶⁾宗教と予言との結びつき、高い神観に付随する高い倫理、正に *dessing* をして人類の教育と叫ばしめた他の民族に類例のない精神遺産であった。事がここに至ったのは8世紀の²⁷⁾記録予言者たちの出現の時代であってそれまではイスラエルは民族としての苦難による浄化のるつぽを通らなければならなかった。なおこの民族の倫理生活も歴史の開幕にあっては他の未開人と五十歩百歩であった。イスラエル人の倫理の段階に即応しているかのように、神の名において命じられた託宣には意想外のものがある。

今行ってアマレクを撃ち、そのすべての持ち物を滅ぼしつくせ。彼らをゆるすな。男も女も、幼な子も乳飲み子も、牛も羊もらくだもろばも皆殺せ。サヘル記上15.3

これは神に油を注がれて初代のイスラエル王となったサウロに予言者サムエルの口を通して神が命じた言葉である。サウルはしかし神の言葉に従いつつもそれを取捨て敵に対して臨機応変の手心を加えた。その結果は神をしてサウロを王としたことを悔しめた。

この後サムエルはサウルに次のような訓告を与えている。

主はそのみ言葉に聞き従うことを喜ばれるように燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。

見よ、従うことは犠牲にまさり聞くことは雄羊の脂肪にまさる。サムエル書の記者によれば同書15.22

サウロの罪とは神命に対する無条件的服従ではなく付帯条件づきの服従であった。このサウルの場合はそのままアダムとエヴァのそれではなからうか。黒崎幸吉はこの消息を下のように記して余すところがない。

²⁸⁾然らば如何なる点がアダムとエバの罪であるかというにこれ全体より見て明らかなごとく、神の言葉に不従順なことがその罪であったのである。神の御言の内容如何は問題ではない。不従順なりしことそれ自身が罪の全体である。

アダムとエヴァの禁令を破らせたのは蛇のそそのかしとされている。この蛇がサタンを象徴するという神学的立場に立つのはヨハネの黙手録²⁹⁾の記者である。これが非とさるべき理由はない。だが編集された時代の背景に着する限り、蛇を悪魔と同一視することには首肯しがたいものがあるのではなからうか。サタンの存在がイスラエル宗教の中に受け入れられたのはJ記者の時代に遙かに後れたユダのペルシア帝国の支配下にあった世紀であると言われる。

蛇の原語は **חָי** これには *divination* の意味がある。 *divination* とは占い。易断に

代表される一切の呪術行為が意味されている。わたくしたちが創世記と表裏させて繙いて来たサムエル書に再び帰ろう。これにはサウルからダビデへの王権の推移の経緯と理由が書かれている。もし人が私行の一点にしぼるならば非難さるべきはダビデであってサウルではない。不思議なこと。サムエル書の記者にはこの事実が無視され王冠はダビデの頭にかぶせられた。その理由は上述した通り神への服従のあり方にあった。サウルは神に捨てられた。言いかえれば彼と予言者サムエルの関係が不調になった。サウル³⁰⁾は神に帰ろうと必死になった。こうして彼が頼みの綱としたのは霊媒者であった。サウルがこのような王として醜体を演じたのは、その口寄せの Driver の言に従えばその超人力に信じ入ったゆえではなかったらうか。

む す び

繰返して言えば、イスラエルの十二部族が統一され民族として独立したのはサウル王朝以後である。砂漠を漂浪する半遊牧民のイスラエルがヤハウエの約束のまま乳と蜜の流れるカナンに定住したのはこの時。かれらはこの地において高度な農耕社会の文化に接触した。かれらはダビデの軍事的手腕により 隣国の 外敵の脅威から解放されたのは 前述の通り。それだけではなく、かれらはダビデに次ぐ賢王ソロモンの平和的外交政策により繁栄の絶頂に達した。

1世紀のローマは武力によってギリシアを征服した。ローマ³¹⁾はしかし文化においては詩人ホラテウスの歌ったようにギリシアに制圧された。イスラエルの建国はこれとは全くうらはらであった。この時代にはイスラエルは³²⁾鉄器時代に入り、かれらは戦車の製造と使用とをカナン人に学んだ。かれらの戦術は進んだ。それと同時にダビデと³³⁾ゴリアデに見られた聖戦的性格はイスラエル軍から失れた。かれらはヤハウエの選民として、ヤハウエをかれらの王とした。この国は祭政一致、そのままの祭政であった。イスラエルの王朝とはかれらの³⁴⁾敵国の国制に肖ったもの。

ヤハウエは天地創造の神であり、異邦の神々のように神殿を必要としなかった。敬虔なダビデに代って立った知恵の人ソロモンは多数の労働者と巨大な出費の犠牲においてエルサレムに神殿³⁵⁾を造営した³⁶⁾。イスラエルの神はカナンの神バールと合祀されその人格的倫理的性格が奪われ自然的官能的な祭儀が営まれるようになった。

このイスラエルの王制を選んだのは外ならぬイスラエルの民自身であった。予言者サムエルはこの民衆の世論をせきとめた最後の人であった。人定って天に勝つ言のごとく、サムエルの抵抗は空しく終わった。

³⁷⁾民が、すべてあなたに言う所の声に聞き従いなさい。彼らが捨てるのはあなたでなく、わたしを捨てて、彼らの上にわたしが王であることを認めない。サムエル上11.11

サムエル書の記者の発言に応えたのは8世紀の予言者ホセアの下言葉である。

彼らのすべての悪はギルガル³⁸⁾にある。

わたしはかしこで彼らを憎んだ。ホセア9.15

イスラエルの歴史が Sacra³⁹⁾と Saecula の二つの方向をたどるようになったのはその建国以来である。

J記者はこうしたイスラエル民族の聖なる宗教国家から俗なる次元国家への転落の過渡期の時代精神への抗議者であった。すでに上述された善と悪とを知る木の実とはこう考えればカナン人宗教また文化を隠喩していることは容易にうけがわれるのではなからうか。そしてアダムとエバを誘った蛇とはカナン宗教の時めく代表者であらう。

終わりに、イスラエルにおいては神命にはモーセの十戒に見られるように命令者からの理由は付記されていない。先ず行なえ。これがユダヤの倫理の一般通念であったことはイエスに永遠の生命を嗣ぐ次第を訊ねる時⁴⁰⁾ *Ti arathon poihōw...*: 如何の義をなすべきでしようかと始めていることからもうかがわれる。

パウロの告白する律法は⁴¹⁾ 聖なりとの命題もこれを伏線としたのであろう。善とは何か。こう問いこの間に納得する答を待って行動するギリシャの倫理とユダヤの倫理との間にははっきりと一線が通されている。ではイスラエルの精神史において律法を至上命令 (Kategorische Imperative) として打出したのは誰か。創世記の禁断の裏の記事は竜を画いて点ぜられた晴の役割をしているのではなからうか。

注

1. 経沼寿雄著 新納正典のプロセス p.21-27
2. 2C以後のギリシア語エドモン, ジャコブ西村俊昭訳 文庫クセジュ旧約聖書 p.39
3. Die Heilige Schrift des Alten und des Neuen Testaments Verlag der Zwingli-Bible Die Heilige Schrift von F. E. Schlachter: Die Heilige Schrift des Alten und Neuen Testament von Hermann Menge
4. 内村鑑三全集3 旧約聖書上 p. 11-12.
5. 渡辺善太全集1 モーセ五書の批評 p. 107-109.
6. JはB・C701以後, Pは, B・C538から450の間とされて来たが, これは推定であり確定ではない。H.H. Rowley The Alttestament and Modesn Study p. 71.
7. サムエル・テリエン著小林宏, 船本弘毅訳聖書の歴史 p. 90.
8. 渡辺善太全集1 モーセ五書の批評 p. 117.
9. モーセ以前のイスラエルを指す名称。キリスト教大事典 p. 665.
10. 南北対立の歴史を記したのは列王紀略(上・下)
11. あなたがたはいつまで二つのもの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならばそれに従いなさい。列王紀上18:21.
12. 原文校訂による口語訳出エジプト記中央出版社発行 p. 38.
13. The International Critical Commentary Genesis p. LXV-LXVI.
14. 拙稿歴史の一回性への接近奈良大学紀要1976 p. 65-67.
15. אָדָם は男の意味。文語訳日本の聖書がアダムと固有名詞にしているのに対し【語訳が普通名詞に訳しているのは原語に忠実を期したためであろう。
16. ギリシア語。散らされた者の意味。パレスチナ本土に住むユダヤ人とは違いかればヘブライ語やアラム語を使わず当時の国際語 Koine ギリシア語を話した。
17. 一般には予言と訳されている。が浅野順一著「予言者の研究」にあやかりこの訳に従う。
18. マタイによる福音書1.1 参照。
19. D記者の執筆。ダビデ伝は上の後半と下の全体
20. サムエル後書11-12.
21. 創世記38. これはJ資料参照。
22. Heilsgeschichte の訳, 世界史をキリスト中心主義な立場で解釈する神学。これが神学用語となったのはドイツの Hofmann, Johann Christian Konrad von (1810-77) 以来のこと。
24. 創世記3. 17-18.
25. Westminster Commentaries The Book of Genes 1911 p. 41.
26. Prophecy and Religion by Skinner, J 1922 p. 1.
27. アモス以後の予言者をこう呼ぶ。彼以前の予言者の言葉口伝また伝承となったのに反し, これからは予言者の言葉が記録され文学形式に組み入れられた。

28. 黒崎幸吉著作集6 サタンの誘惑に対するアダムとキリスト p. 345.
29. ヨハネの黙示録12. 7-9.
30. サムエル記上28. 3-25.
31. Graecia capta ferum victorem cepit et artes intulit agresti Latis 敗られしギリシアは猛
猛な征服者を捕えホラティウスの書簡草味なラチウスに技芸を導入したり。私訳。
32. サムエル書上13. 19.
33. サムエル書上16.
34. Ancient Israel by Roland de Vaux Vol. 1 p. 92-99.
35. 列王紀上6. 参照。
36. 浅野順一著予言者の研究 p. 14-18.
37. サムエル書上には王制を支持する記事もある。9. 1-10.
38. サムエル書上13. 4, 7.
39. ダビデの王位は予言者からの注油ではなく、ユダの人々の支持によった。サムエル書下 2. 1-4 参
照。
40. マタイによる福音書19. 16. 41. ローマ人への手紙7. 12.
本文に使用した底本 Old Testament Hebrew and English The British & Foreign Society
1961. Kregel Reprint library Interlinear Hebrew-English Old Testament Genesis-
Exodoys 1975.

Summary

Many things are to be discussed concerning the tree of the forbidden fruit. But the writer has summarised them in the two: namely, one is the reason why Adam was condemned by God in eating; and the other is the meaning what the serpent expressed in symbolical form is. He shall be happy if any suggestion is offered by the cordial reader in this short paper.